

の時代に多収良質の四文字を命題として生きて来た者の僻みだろうか。

安全、安心、安価の食物生産供給だけでは農家の生活は成立たない。三安に良質、良食味多収が結び付いてこそ農家経済は豊かになる。

良質、良食味多収の技術確立に役立つ生産資材の開発普及が停滞気味にある農家の生産意欲を高揚できる最大の方策であろうと信じている。

参考文献

- 1) 農林水産技術情報協会 昭和農業技術発達史(水田編)
- 2) 佐賀県農業試験場(金山擴) 水稻除草剤適2 適1 試験成績
- 3) 佐賀県農業試験場(金山擴) 稲作関係試験成績書
- 4) 金山 擴, 宮腹益次他 トリアジン関係試験成績書
- 5) 佐賀県産地づくり, 土地改良部会 土壤, 作物栄養診断の手引
- 6) 江井兵庫(日本近代農業研究所) 土づくりのすべて
- 7) 市丸喜久他 普及員現地研修成績書
- 8) 日植調協佐賀試験地(金山) 適1. 実規模試験成績書
- 9) 九州農政局佐賀統計情報事務所 作況試験累年成績書
- 10) クミアイ化学工業株式会社 シメトリンの土壤吸着について

雑草こぼれ話

— 雑草のくらしの不思議 —

雑草の生育は図鑑や教科書どおりでないことがしばしばある。ときによっては多種多様の姿を見せる。平成15年1月6日, 東京秋葉原周辺の空き地や街路樹の根本を見て歩いた。コハコベ, ミドリハコベは株になって緑の葉を茂らせ, オオアレチノギク, セイヨウタンポポ, ホウコグサ, ウラジロチチコグサ, ノゲシ, オニノゲシがロゼットを広げている。これらは越年生または多年生であるから図鑑や教科書どおりである。しかし, この中に混じって昨年生育したノゲシが高さ30cmぐらいの成植物になって見事な花を咲かせている。今年は東京でも既に2~3回雪が葉に積った筈である。それなのに何故今頃花をつけるのか?, 狂い咲きだけでは片づけられない気がする。

イヌホオズキは1年生草本(春に芽ばえ秋

には枯れる)と書かれている。ところが空き地や植え込みの中で側にあるシロザやヒナタイノコズチの葉は全部落ち茎だけが残っている中で, イヌホオズキは葉がやや紫がかっているがピンピンしていて, 枝先に花を咲かせ, 実も立派な実になっている。この冬にどこから虫が来て花粉を媒介するのだろうか? しかも枝先は更に生長する構えを見せてつぼみが次々とついている。その根本を探って見ると節々には新しい枝芽が多数出ていて, なかにはかなり生長したものも見受けられる。これが本当に1年生なのか, 少なくとも暖地では多年生の生長をする。この株は幸い人手があまり入らない場所なので今後の成り行きを見るのが楽しみだ。植物のくらしにはまだまだ不思議な事象が隠されている。 ㊦